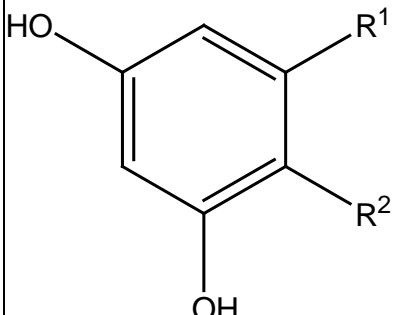
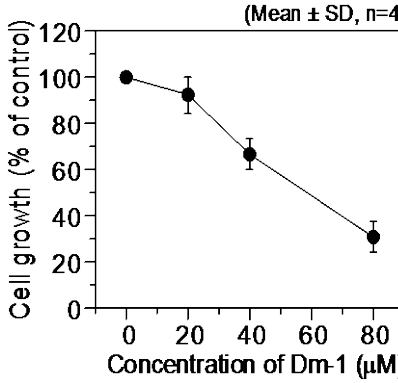
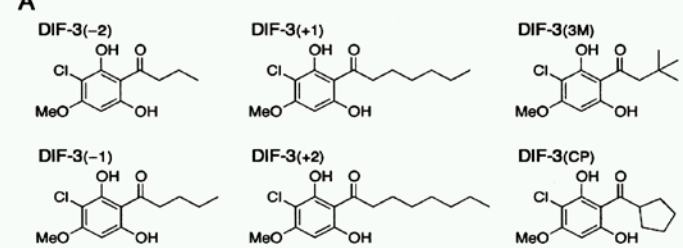
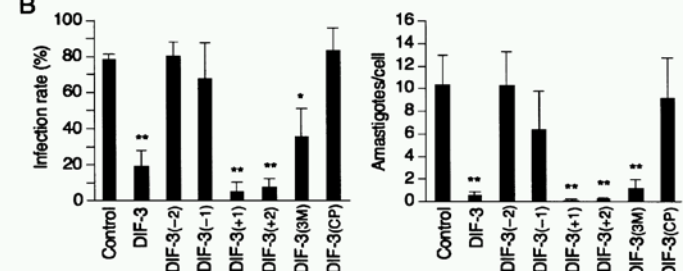


発明の名称	抗腫瘍剤(特許第 4389028 号)	
学内発明者	久保原 禪(元生体調節研究所) 保坂 公平(元保健学研究科)	
技術分野	医薬(抗腫瘍剤)	IP17-060
発明の概要	細胞性粘菌から単離された化合物が抗腫瘍剤や細胞増殖阻害剤として有用であることを見出した。	
説明図	  <p>(Mean ± SD, n=4)</p>	<p>一般式(左)で表される化合物またはその薬学的に許容される塩を抗腫瘍剤の有効成分とする。式中、R¹は炭素数3~8のアルキル基を示し、R²は炭素数1~3のアルキル基を示す。</p> <p>化合物 Dm-1(R¹の炭素数5、R²の炭素数1)の K562 細胞に対する増殖抑制効果を示す図(右)。</p>
ポイント	上記一般式で表される化合物が、白血病由来の細胞株である K562 細胞や HL-60 細胞の増殖を抑制することを見出した。	

発明の名称	抗トリパノソーマ剤およびトリパノソーマ症治療薬(特許第 5610433 号)	
学内発明者	嶋田 淳子(保健学研究科) 久保原 禪(元生体調節研究所)	
技術分野	医薬・創薬	IP22-008
発明の概要	細胞性粘菌由来 DIF-3 誘導体が、アメリカトリパノソーマ <i>T. cruzi</i> の感染と増殖を強く阻害することを見出した。さらに DIF-3 誘導体のホスト細胞に対する毒性は比較的小さいことを見出した。	
説明図	<p>本発明の構成図</p> <p>A</p>  <p>B</p> 	<p>A.アルキル側鎖を改変した DIF 誘導体の化学構造式。B.トリパノソーマの感染率と増殖に対する DIF 誘導体の効果を示す図。グラフの値は3回の実験の平均値と標準偏差。*はp<0.05、**はp<0.01 versus Control (by t-test)で有意差があることを示す。</p>
ポイント	本発明の DIF-3 誘導体は、トリパノソーマのホストへの感染やホスト細胞内での増殖を阻害する薬剤として好適に用いることができる。また、トリパノソーマに起因する南米シャーガス病やアフリカ睡眠病などのトリパノソーマ症の治療薬としても好適に用いることができる。	